

【群書類従など叢書を紹介します…第3回】

「続群書類従」

「児玉についての記述」

文：顕彰会事業委員
長谷川典明

前回まで群書類従の「作庭記」「廻国雑記」を取り上げました。今回は「宴曲抄」（続群書類従十九下 遊戯部五五五）「南無飛龍権現千手千眼日本第一大靈験善光寺修業」を紹介しします。

【本文】児玉地方に関係する記述は「稍もさびしくならぬ梨、打渡す早瀬に駒やなむむらん、たぎりておつる浪の荒河行過て、下にながるる見馴川（みなれがわ）、見なれぬ渡をたどるらし、朝市の里動（どよむ）まで立さはぐ、是やは児玉玉鉾の、道行人に事とはん、者の武（ものゝふ）の弓影にさはぐ雉が岡、矢竝（やなみ）にみゆる鐮河（かぶらがわ）、今宵はさても山な（山名）越ぞ、いざ倉賀野にとどまらん」とあります。

【解説】見馴川は現在の小山川で、当時は橋がなく渡し場があったのでしようか。宿場についてみ

ると朝市で大勢の人々がにぎわい、ここが児玉だと道行く人に教えられた。雉ヶ岡城には武士の姿も見えた。やがて西を目指し、藤岡市と高崎市の境を流れる鐮川を渡り、山名を経て倉賀野で泊まった、と読めそうです。神流川や鮎川が略されているのは弓、矢と続いたので鐮矢から鐮川と縁語になっているためでしょう。

見馴川、児玉、雉が岡と文章化された最も古いものとなるでしょう。鎌倉時代約七百年も前の児玉の様子を知ることができる貴重な史料です。鎌倉街道上道を調べるのにも大変役立つでしょう。

この「宴曲（えんきょく）」とは、中世の歌謡で、延曲とも書き、早歌と通称され、和歌、物語や名所旧跡などの地名を素材に、物尽くしや縁語・掛詞を駆使して一曲を構成し、七五調を主にした長大な詞章が無伴奏で、宴席や仏教講式などで謡われたものだそうです。

「続群書類従」

これを収録した「続群書類従」（一〇〇〇巻 一一八五冊）は、塙保己一が編集・校訂など準備を進めていたのですが生存中には日の目を見ず、没後に完成されたものです。塙保己一は、寛政七（八年）頃、企画に取りかかり享和三年（一八〇三）その目録下書きを林大学頭に提出しました。その後、文化十一年（一八一四）開版を申し出たものの、刊行費用調達の問題等で取り掛かれず、



桜咲く雉岡城址内の塙保己一記念館

そのまま文政四年（一八二二）年に亡くなりました。二代次郎忠宝（ただとみ）がその跡目を相続しましたが、文久二年（一八六二）に暗殺されたため、その子三代 敬太郎忠韶（ただつぐ）が継ぎました。その忠韶が版木での刊行を中止して写本整備に努め、続群書類従約八五〇巻の写本を宮内省に納めたのは明治十六年（一八八三）のことでした。

一般への刊行（活版本）は、田口鼎軒（ていけん）主宰の経済雑誌社で明治三十五年（一九〇二）から刊行を開始したものの、やがて中断、大正十一年（一九二二）に太田藤四郎（とうしろう）の主宰する続群書類従完成会が創立され、やっと昭和三年（一九二八）に初版が七十一冊で完成しました。

このように叢書類を刊行するには大変な困難を伴うもので、群書類従正編を完成させ、続編への道筋もつけた塙保己一の力が如何に偉大であったかを改めて知らされるわけです。

平成25年度 顕彰会 総会 にご参加ください

郷土の偉人 塙保己一先生の偉大な業績を顕彰する総検校塙保己一先生遺徳顕彰会も会員のみならずのおかげにより発足から7年目を迎えます。下記のとおり今年度の総会を開催しますので多数のみなさまのご参加をお待ちしております。申込み不要です。



児玉中吹奏楽部のみなさんによる記念演奏があります。

日時 6月1日(土)午後1時30分から受付
午後2時 開式
会場 セルディ ホール
内容 前年度事業報告・決算報告
今年度事業計画・予算審議
報告事項（銅像建立計画の途中経過）
記念演奏 児玉中学校吹奏楽部による演奏

平成24年度 顕彰会 事業報告

平成24年度中の顕彰会活動につきましては、下記の定例事業のほか、特別な事業として塙先生没後190年記念企画事業 塙先生墓所の移転を実施しました。また、本庄市自治会連合会の自治会勉強会への協力（講師派遣）を行い、25年3月末までに累計75自治会での説明を終え、参加者1,327名の方々に塙先生の事績を勉強していただきました。



新墓所竣工式の様子

顕彰会総会 5月19日(土)

平成24年度顕彰会総会を開催し、会の運営についての審議・承認が行われました。顕彰会への寄付に対し児玉地域自治会連合会への感謝状贈呈等も行い、また、温故学会研究員小出 明 氏による「塙保己一を支えた人々」のタイトルの講演も行われました。



寄付に対する感謝状贈呈



金屋小児童が菊を献花



温故学会会長ごあいさつ

顕彰祭 9月12日(水)

塙先生の命日に遺徳を偲びセルディで菊の花を捧げました。当日は新墓所にて地元の神主・住職により竣工式を開催、会の役員、来賓、市議会議員等ご列席のもと盛大に挙行了しました。



副賞 塙先生坐像の贈呈



新垣勉氏の公演

塙保己一賞 12月15日(土)

埼玉県と本庄市共催による塙保己一賞への協力を行いました。当日は、障害がありながら社会的に顕著な活動をしている人や応援している人・団体など4名が表彰されました。

本庄市塙保己一記念館にある資料紹介

寛政五年(一七九三)和学講談所規律書

文：顕彰会事業委員 荒井一夫

この規律書は、前段の部分が欠落しています。和学講談所内において、和学講談会が定例的に毎月開催されていたことから、欠落の主なもの、校合書籍の十五部と推測されます。なお、後段には心得の表記が見られます。この規律書から、学問への真摯な態度を窺い知ることができます。

(上写真の文言)

(上記文言の解説)

五之日	朝野群載	朝野群載(II研究文献名。この文書の前段からの続き。)
大鏡	水鏡	五の日に(に研究する文献)世継
増鏡	今鏡	水鏡 大鏡 今鏡
東鏡	東鏡	増鏡 東鏡
廿一代集	新葉和歌集	九の日に(に研究する文献)廿一代集 新葉和歌集
源氏物語	源氏物語	源氏物語

一 毎会日に自午前中剋至申中剋
上件の書籍可致講習校合候
永々以右廿五部為本書幾
辺も可致校合事

一 稽古の道者書として読へ
からさるはなし、依之雖為
廿五部之外臨時申合、午刻
以前可致考訂事

一 讀書の間者雑談一切令
停止、議論校合專一にいた
すへき事

寛政五年十一月

会頭

一 讀書の間は全く雑談しない
で、議論校合(照らし合わせ)
に専念すること。

寛政五年十一月

会頭

25年度も塙先生顕彰会の会員として継続してご協力いただけますようお願い申し上げます。

みなさまからの貴重な会費は、没後195周年に建立予定の塙先生の銅像の作成費用や毎年9月12日に塙先生に菊の花を捧げ遺徳をしのぶ顕彰祭のため、また、その他の啓発活動に使用させていただきます。

まだ継続手続きをされていない方は会費の納入をお早めをお願いいたします。

みなさまのご協力をなにとぞよろしくお願いいたします。



年会費 個人会員 一口 千円、 賛助会員 (団体) 一口 一万円
入会と会費納入の受付場所 本庄市生涯学習課(中央公民館)と本庄市児玉文化会館(セルディ)内
で受け付けています。 本庄市役所4階文化財保護課では、平日にお預かりします。

※ 郵便振替でも申し込みできます (ご希望の際には、下記へご連絡ください)。

発行 総検校塙保己一先生遺徳顕彰会
事務局 本庄市教育委員会 生涯学習課 本庄市児玉文化会館 (セルディ) 内
所在地 367-0216 埼玉県本庄市児玉町金屋728-2
電話 0495-72-8851 FAX 0495-72-8854

※点訳ボランティアグループ「ほきの六点会」の皆様により会報誌の点字翻訳版を作成していただきました。ご希望の方は、事務局までご連絡ください。



第6回塙保己一賞の様子

ごあいさつ

木々の緑も一層鮮やかとなり、吹き渡る風も爽やかな季節となりました。会員のみなさまには、ご健勝でお過ごしのこととお慶び申し上げます。

みなさまには日頃より当顕彰会へのご支援・ご協力を賜りまして厚くお礼申し上げます。まことにありがとうございます。

さて、顕彰会の活動といたしまして昨年度には、塙保己一先生没後190周年企画の塙先生墓所の移転を実施させていただきましたほか、例年、顕彰事業として行わせていただいております重要な行事である顕彰祭の開催、埼玉県と市共催の塙保己一賞への協力を実施してまいりました。

なお、今後につきましても、さらなる塙先生顕彰のため、銅像建立に向けて進むほか、各種啓発事業等を行ってまいりますのでご理解・ご協力のほど よろしくようお願い申し上げます。

総検校塙保己一先生遺徳顕彰会
会長 吉田 信解